

投稿の手引き

1. 原稿はワードプロセッサを原則とし、1頁あたり20行、1行あたり25字とし、右側に6 cm程度の余白をとり、行間を紙面全体にわたるように十分にあげ、A4版用紙に印字する。手書きの場合は、A4版400字詰原稿用紙を用いる。アブストラクト等の英文はワードプロセッサまたはタイプライタを用い、ダブルスペースで印字する。
2. 原稿には、表題として第1頁に、和文題目、漢字著者名、英文題目、ローマ字（略さず）著者名をこの順に書き、脚注として所属官署を和文と英文で書く、つづいて、英文アブストラクト、同和訳、和文本文、文献、図・表・写真の説明、同和訳をこの順に項目毎に用紙を別にして記す。ただし、報文、雑報は英文の所属官署とアブストラクトは省き、図表等の説明は和文のみでよい。文献はそれがないとき省くことができる。
3. 英文アブストラクトは、目的、仮定、方法、結論等を明確に書き、本文の数式、図表等は引用しない。
4. 本文
 - 4.1 節の切れ目は1行あける。
 - 4.2 節に見出しはゴシックとし、各節の本文は新しい行から1文字あけて書き始める。文の切れ目で行を変えるときも1文字あける。
 - 4.3 句読点には、.（ピリオド）、,（コンマ）を使用し、.、は使用しない。
 - 4.4 人名、地名の読みにくいものには振り仮名を付ける。
 - 4.5 まぎれやすいアラビア数字、ギリシャ文字、ローマ文字、ベクトル記号等には、片仮名でフリガナ（朱書）を付け、大文字、小文字の別を示す。添え字は判別できるようにはっきり書くか、校正記号（朱書）を付ける。
 - 4.6 数式、特に本文中の数式はなるべく行間が1行以上にならないようにする。
 - 4.7 単位は原則として国際単位系（SI）を使用する。
 - 4.8 暦年は原則として西暦を用いる。また、人名の敬称は原則として省略する。
5. 図・表・写真
 - 5.1 図等の表題・説明は、論文の場合は原則として英文で、その他の場合は和文で書く。図等に直接書かずに別紙に番号順にまとめて列記する。英文の場合は和訳を添付する。図表中の文字、記号はもれなく説明する。また、必要な単位は必ずつける。
 - 5.2 図等の挿入個所を本文の右スペースに朱書する。
 - 5.3 図等には、第1図、Fig 1、表1、Table 1のように通し番号を付け、隅に著者名を記しておく。
 - 5.4 製版後は図の修正は不可能なので、注意すること。刷り上がり寸法または縮率を記入する。ただし、縮率は編集の都合により変えることがある。
6. 参考文献
参考文献は、本文の末尾に原則として次の形式にしたがって列記する。並べる順序は和文を先にして50音順、続いて欧文をアルファベット順に並べる。
雑誌 著者名（西暦年）：表題、雑誌名、巻数、号数（原則として省略）、ページーページ
単行本 著者名（西暦年）：書名、第何版、発行所、総ページ数（または引用ページ）。
（例）
安藤邦彦（1992）：表面現象から見た近年の伊豆大島の火山活動の期間とその特徴、験震時報，55，139-156。
宇津徳治（1985）：地震学，第2版，共立出版，310pp。
Hull, A. G. and C. Nicholson (1992) : Seismotectonics of the Northern Elsinore Faults Zone, Southern California, Bull. Seism. Soc. Am., 82, 800-818

平成15年3月24日発行

編集兼発行人

気 象 庁

東京都千代田区大手町1丁目3-4

印刷所

株式会社リプログラフィックセンター

東京都千代田区神田須田町2-15-9 加藤ビル

Quarterly Journal of Seismology

Vol. 66 Nos. 1~4 March 2003

Contents

PAPER

Centroid Moment Tensor Analysis by using the JMA Broadband Seismic
Observation Network

.....Koji NAKAMURA, Shigeki AOKI, and Yasuhiro YOSHIDA

1

Published

by

The Japan Meteorological Agency

c/o Seismological and Volcanological Department, JMA

1-3-4 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8122, JAPAN